

## 会 議 録

1 会議名

平成31年度 第1回金谷区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 平成30年度地域活動支援事業の完了について（公開）
- (2) 自主的審議事項「金谷区の観光・イベントについて」（公開）
- (3) 平成31年度地域活動支援事業の審査・採択について（公開）

3 開催日時

平成31年4月24日（水） 午後5時58分から午後7時28分まで

4 開催場所

福祉交流プラザ 第1会議室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

- ・委員：高宮宏一（会長）、川住健作（副会長）、村田敏昭（副会長）、  
伊崎博幸、石野伸二、牛木喜九、齋藤邦博、高橋敏光、竹内恵市、  
永野起男、西条聖士、吉村清正
- ・事務局：南部まちづくりセンター 堀川センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【小林主任】

- ・伊藤委員、桑山委員、土屋委員、山口委員を除く12人の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告
- ・同条例第8条第1項の規定により、議長は高宮会長が務めることを報告

【高宮会長】

- ・会議の開会を宣言

・会議録の確認：高橋委員、竹内委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

資料により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第3報告（1）平成30年度地域活動支援事業の完了について—

【高宮会長】

次第3報告（1）「平成30年度地域活動支援事業の完了について」に入る。

事務局に説明を求める。

【堀川センター長】

資料No.1により説明。

【高宮会長】

事務局の説明について質疑を求めるがなし。

—次第4議題（1）自主的審議事項「金谷区の観光・イベントについて」—

【高宮会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項『金谷区の観光・イベントについて』」に入る。

前回の会議では、冊子やパンフレットについては、高橋委員から「金谷地域歴史を守る会」で「金谷地域歴史観光マップ」をリニューアルする予定の話があったことから、その進捗を見守ること。また、そのほかの取組の案については、全て取り上げないことに決まった。

よって、現時点では地域協議会で取り上げる案件がないことから、本日は、自主的審議を継続するかどうか協議したい。

取り上げたいことがあれば審議を継続していきたいと思うが、継続しない場合は、

審議を休止し、「金谷区の地域課題」の検討を続きから行いたいと思う。

委員に意見を求めるがなし。

「金谷区の観光・イベントについて」は、「金谷地域の歴史を守る会」のマップ制作の進捗を見守るという形で、審議を休止することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

それでは、次は「金谷区の地域課題」の検討を続きから行う。優先順位では、次が「移住・人口対策」について、自主的審議に取り上げるかどうかを協議することになる。

それでよいか確認を求め、委員全員の了承を得る。

今回は地域活動支援事業の審査・採択があるため、次の協議は6月以降に行うことでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

それまでに、各委員は意見をまとめてきてもらいたい。

#### —次第4議題（2）平成31年度地域活動支援事業の審査・採択について—

##### 【高宮会長】

次第4議題（2）「平成31年度地域活動支援事業の審査・採択について」に入る。

まず、今年度の審査・採択の日程を決めたい。

正副会長案を資料No.2のとおり示した。内容について、事務局に説明を求める。

##### 【小林主任】

資料No.2について説明。

##### 【高宮会長】

事務局の説明について質疑、意見を求める。

##### 【石野委員】

2日に分かれる場合の連絡は、締切りが終わった後すぐに来るのか。

##### 【小林主任】

5月7日に締め切った後、正副会長と相談させてもらい、案内文をその週のうちに送る予定である。

**【石野委員】**

日にちは早く知った方がよい。皆さんいろいろ都合もあると思う。22日は確定だろうが、24日に持ち越すか持ち越さないかという部分は、文書ではなく電話連絡だけでもよいかと思う。

**【高宮会長】**

文書発送より電話がよければ、電話でしたい。

**【小林主任】**

現時点の提案件数は、受付したのが8件、相談段階のものが5件、合計で13件。13件全て審査することになると、2日間に分ける予定になると思う。

**【石野委員】**

去年は午後3時から開催したが、22日は1時間くらい早めに開始して、13件くらいなら1日で終わらせてしまうということも一つの選択肢である。

**【村田副会長】**

その場合でも、22日には結果が出ないということになる。すなわち、審査2日目の24日に順位表をもとに採択事業の検討をするので、提案者は24日の結果待ちになると考えてよいか。

**【石野委員】**

件数次第だが、要は早く始めれば終わりが早くなる。審査結果の集計、採択事業の検討、補助金の配分などはできるのではないか。

**【村田副会長】**

1日で決まった方が、提案者にとってもよいと思う。

**【高宮会長】**

相談の5件も入れて13件となれば、去年と同じになる。正副会長と事務局で相談して、1日で終わるのであればそうしたい。

開始時間を午後2時にするというので、提案件数によって、1日で終わるか、あるいは2日になるかを決めたいが、それでよいか。

**【吉村委員】**

開始時間を午後3時から午後2時に訂正ということか。

**【佐藤係長】**

件数による。

**【川住副会長】**

午後2時に始めて、その日のうちに終わるとすると、審査結果の集計に結構時間がかかる。

**【村田副会長】**

福祉交流プラザの閉館は午後9時。

**【石野委員】**

去年は、審査・採点シートを最後にまとめて集めたと思う。それを一つ終わったごとに集めていけば、その間集計できる。そうすれば結果は早く出ると思う。

**【村田副会長】**

金谷区では、1日で判断して、提案者にお知らせすることができたような記憶がある。

**【川住副会長】**

今までは全部1日で決まった。2日でやったことはない。

**【高宮会長】**

要は、午後9時にはここを出なければいけない。午後3時を午後2時に変更し、1時間早めれば、件数によって違うが、終わるのではないか。それまでに採点が終わらなければもう1日という形になると思う。今、石野委員が言われたように、その件数ごとに集計をしてもらえば早いのではないか。

**【小林主任】**

午後2時開始とし、件数が少なければ早く終わる、多ければぎりぎりまでやるという形でいかがか。

**【高宮会長】**

午後2時開始でよいか諮り、委員全員の了承を得る。

**【小林主任】**

昨年度決定した審査・採択のルールでは、審査・採点シートの回収は、プレゼンテーション、質疑が全て終わった後に、全部の事業をもう一度確認してから提出す

ることになっていた。先ほど石野委員からは、事務局の集計時間を早めるために、1事業の採点が終わったごとに事務局に提出することに変更したらどうかという提案があった。その件を協議してもらいたい。

【高宮会長】

集計は1件ごとでできるか。

【小林主任】

可能である。

【石野委員】

昨年は確か審査・採点シートの集計で45分くらいかかったと思う。1件ごとに回収すれば、件数が多いほど集計する時間が短縮されるため、その後の採択事業の検討に早く行ける。

【吉村委員】

1件1件回収しても不都合は発生しないのか。

【石野委員】

前の年はそうだった。

【小林主任】

不都合はない。平成28年度はそのやり方をとっていた。

【高宮会長】

そのように審査・採択のルールを修正することでよいか諮り、委員全員の了承を得る。

次に、補助金希望額の合計が金谷区の予算額850万円を超えた場合の採択方法について検討したい。これは、以前に会議の中で、「平成30年度は採択方法の検討に時間がかかったため、次はあらかじめ採択方法を決めておいた方がよい」との意見があったことから、本日検討するもの。

正副会長案を資料No.3のとおり示した。内容について、事務局に説明を求める。

【小林主任】

資料No.3について説明。

【高宮会長】

事務局の説明について意見、質疑を求める。

**【石野委員】**

昨年はその場しのぎの減額をしたが、上位と下位の補助率の差が2.7パーセントしかなかった。私たちは順位付けをするために審査をしている。例えば昨年度でいけば、1位の共通審査の合計点が満点の88パーセントである。最下位が約70パーセント。18パーセント差がある。それが補助率では2.7パーセントしか差がない。これはおかしいのではないかと思う。その団体としては、金額をある程度絞り、ぎりぎりの金額みたいな形で提案している。積立金があるような団体であれば、その資金を使うことは可能だが、それすらないような団体は、減額された分厳しくなる。何か事業をカットしないとその事業自身が成り立たない。昨年度の例では、共通審査の委員一人あたりの平均点が、最下位は17.4点、1位は22点であり、その中間より平均点が上であればAクラス、下はBクラスという形にして、Aクラスは100パーセント補助、Bクラスで減額するという方がよいと思う。何のために私たちは順位付けしているのか、なぜ事業評価をしているのかという部分をもう少し明確にした方がよい。正副会長案については、全ての事業を減額しても救いたいという意味は分かるが、決められた予算があるのだから、その中で地域協議会として判断すべきだと思う。

**【高宮会長】**

石野委員の意見に対して、委員に意見を求める。

**【高橋委員】**

石野委員の方法の方がよいと思う。やはり点数をいっぱい取った方が補助金を多くもらえるのがよい。

**【村田副会長】**

採点した結果、不採択にならなかった事業について、減額はあるがみんな採択してあげたいという思いで、こういうやり方をしている。1番だったから、満点をもったから、というのは関係ない。昨年度を見れば、1番点数がよい事業、2番目に点数がよい事業は、減額率が少ない。だから金谷区では、1番の人も10番の人も、少しでも痛みを分かち合っしてほしいという意味で、どうかと考えている。石野

委員のとおり、1番は希望額を満額もらえばよいというのも筋としてあるかもしれないが、1番だからこそ、下の人の痛みを少し分かち合ってもらいたい。金谷区ではそういう考え方でどうだろうというのが、正副会長案の基本である。

**【石野委員】**

その意図は分かるが、資料No.3の配分イメージでいくと、1位が補助率90パーセントで、最下位が75パーセントだが、15パーセントの開きしかない。順位の低い事業なら、これが50パーセントでもよい。私たちが審査して点数を付けていることが、ないがしろになっている。その点を踏まえると、上位3分の1、中位3分の1、下位3分の1で配分を変えるという方法でもよいと思う。お金の余裕のある団体はほとんどないと思う。減額というのは非常に大きいインパクトを与えるので、全て減額というよりは、そういうランク付けをした方が配分的にはおかしくないとと思う。

**【村田副会長】**

参考資料の試算では、1位の補助率が95パーセントで、最下位が67パーセント。28パーセントの差がある。相当な開きがあるかと思うが、これでも駄目か。昨年度の実際の結果と比べれば、整理No.8の提案者は、これだけ減額になってしまう。それでも事業ができるかどうかという確認をするが、非常に厳しい減額率だと思う。

**【石野委員】**

そもそも、採択されたのになぜ減額しなければいけないのかと思う。高田区の場合だと、1位から順に満額採択していき、予算額に達したら以下は不採択とのこと。金谷区は、1位から補助率95パーセントと言われたら、提案する方も5パーセントを上乗せしてしまう。

**【村田副会長】**

この減額率は地域協議会でしか知らない話である。石野委員は自分が提案している立場でもあるからそのようなことを言うのだろうが、ここはあくまでも地域協議会委員としての立場で考えてもらいたい。

**【石野委員】**

1位から徐々に下げていく傾斜ではなくて、上位3割は希望額を満額、残りの3分の2は減額で問題はないと思う。

**【村田副会長】**

それは皆で採決をしてほしい。

**【高橋委員】**

人気のある事業、急ぐ事業、金谷地区においてよい事業だとなれば、点数がいっぱい入ると思う。だから点数割りで評価し、差額を付けるのが当たり前。人気のない事業にも同じ割合で配分するというのはおかしい。提案された事業は全部採択してあげたいという気持ちは分かるが、審査して点数をいっぱい取った事業と差をつけて出さなければ、審査は要らない。

**【伊崎委員】**

高橋委員、石野委員の意見も分かるが、そこも考慮した上で、この正副会長案がよいと思う。

**【石野委員】**

手段はいっぱいあって、正解がどれというのではない。例えば昨年度だったら、共通審査の委員一人あたりの平均点が20点以上の提案は満額にする。20点を超える事業は少ないから、それ以外で減額したらよいのではないか。そうした場合、たまたま下の方で減額率が高くなることもあるかもしれないが、それはやってみないと分からない。平均点20点というのはかなり高いレベルだと思うので、その辺を考慮した方がよいのではないかと思う。

**【齋藤委員】**

なかなか難しい話。基本的に採点は、各委員が自分の主観でやることになる。一人がよい点を付けても、一人はそのようにいかないこともある。皆さんがそれぞれの事業について高い点数を付けるわけではないので、いろいろな点数が出てくる。先ほどの石野委員のとおり、自分たちの積立金など拠出できるものがなければ、その事業全体が「今回できません」ということになる。我々としては、できるだけ一つの事業でも頑張ってもらいたい。ただ、順位によって補助額に差が付くことは仕方がない。昨年は、2.7パーセントという数字でほとんど変わらないではないかと

いうが、事業費が大きい事業と少ない事業ではその差が大きくなる。そういうことであれば、その差が少ない方がよいかと思う。最初から希望額の半分を均等割りすると大きな差が出てきてしまうので、これなら昨年度の方がすっきりしてよいと思う。

**【村田副会長】**

昨年度のやり方はあまり差がなくてよくないのだろう。補助率が2.7パーセントしか変わらないというのは、いくら順位が低い事業に歩み寄るといっても、これでは補助率の差が少なすぎる。だから今回のやり方に変更しているわけなので、差はあってよいと思う。

**【高橋委員】**

昨年度からこんなことをしたが、その前までは全事業を満額採択して終わり、残額をどうするか、もう募集しないで受付をやめるか協議し、それで終わっていた。

やはり共通審査と優先採択審査で差をつけてよいと思う。例えば石野委員のとおり、共通審査で平均20点を取ったら特待するような格好もよいと思う。例え5パーセントでも減らされると、なかなかうまくいかない時がある。個数だけ減らせばよい仕事とそうでない仕事もあるので、そこら辺も考えなければいけないと思っている。

**【吉村委員】**

私もおおむね石野委員と高橋委員の意見に賛成である。高田区のやり方だと、1位から順に満額で採択していき、予算額に達したらそこで終わりとのこと。採点結果を反映するということは、突き詰めればそういうことなのではないか。正副会長案もよく分かる。金谷区の中の問題なのだから、なるべく皆で分け合おうということ。だが、審査していることを考えると、そちら側の意見に賛成する。

**【高宮会長】**

しかし今回は、それではあまりにも提案者に厳しいということで、減額もやむを得ずとなり、全事業を採択して予算内に収めるために、今までにないやり方をした。皆さん喜んでもらったというようところが、昨年度の結果ではなかったかと思う。

**【石野委員】**

たまたま昨年度は希望額の多い事業が上位に来たから、減額率も高かった。今年度の審査はまだやっていないのだから、どういう点数になるのか分からない中で、ある程度の線引きをしてはどうか。高田区は極端な例だ。上位の事業は満額で採択して、下位で減額する。平均点20点以上が1件しかなかったら、1件は満額とし、残りの10件ほどを減額でもよいと思う。あくまでも平均点が20点というのをベースにして考えるべきだと思う。

今8件提案が出ているとのことだが、希望額はおおよそどのくらいなのか。

【小林主任】

現在、8件でおおよそ590万円。

【石野委員】

ちなみに、相談で5件とのことだが、この金額はだいたいいくらか。

【小林主任】

まだ調整中の事業もあるので正確な金額は言えないが、相談を受けた事業と提案を受け付けた事業の合計は850万円を超える。

【高橋委員】

意見を付け加えたい。プレゼンテーションをする方の説明によって、5点や10点差が出てくる。だから皆一生懸命説明するのだと思う。また、団体の中で一番うまくしゃべる人がここに進んでくる。プレゼンテーションをもとに審査しているのだから、点数で差を付けなければいけない。そうでなければ書類審査だけになってしまう。

【石野委員】

現在のところ希望額の合計が850万円を超えると事務局から話があった。トータル860万円とすると、予算額を10万円オーバーする。その10万円は配分するのかということもある。少しずつ差を付けて、100円でも200円でも減らすのか。そのため、オーバーした額が分からない中で、ここで完全に決めてしまうのではなく、審査結果を見てから判断したらどうか。私が提案した、上位の事業を考慮すべきという意見が多いのであれば、それで決めておいて、配分額や率は決めないということでも良いのではないか。

**【村田副会長】**

昨年度、減額率の検討に相当時間がかかった。その時は、全体で協議した結果、こういう配分方法になった。今回はこういう方向性を持っていったらどうかということで、一つ提案を出した。それが860万円にしなければ、これをやる必要もない。ここでその方向性を決めなくても、こういう案もあるということで、時間が少しかかるが、審査結果を見た後に皆さんと再度協議するということがよい。

**【高橋委員】**

決めておいた方がよいのでは。今ここでもこんなに時間がかかっている。

**【石野委員】**

状況によってというよりも、例えば平均点20点というベースを押さえておいて、あとは状況によってどうするか検討するのでよいのではないか。

**【佐藤係長】**

均等割りと順位割りという考え方についてはいかがか。

**【吉村委員】**

どちらの考え方でいくか、スタンスは決めておかないと。

**【高宮会長】**

ただし、以前にもあったが、20万円、30万円予算が残った時に、市に返すか、それとも二次募集するか、協議が必要。そういうものをなくすために、平成30年度は予算を全部使いきるために、上位が高額になるよう、こういう配分にした。

**【石野委員】**

1位から希望額の90パーセントに減額しなくても、1、2、3位は100パーセント補助にして、残りを60から50パーセントくらいにすることでよいのではないか。

**【高宮会長】**

石野委員の意見と正副会長案の2つの案について、採決をしてよいか諮り、委員全員の了承を得る。

正副会長案と石野委員の案について、どちらを採用するか採決し、正副会長案に賛成が7人、石野委員の案に賛成が5人となったことから、正副会長案を採用する

ことに決する。

【石野委員】

正副会長案というのは、1位の補助率が90パーセントというのは固定なのか。

【村田副会長】

額によって違う可能性はある。

【高宮会長】

その時にまた考えるということ。

【石野委員】

1位、2位くらいは補助率が95パーセントでもよいのではないか。10パーセントの減額というのは金額が大きい。例えば10万円の事業なら、10パーセントは1万円になり、何とでもできるが。それはその時に。

【齋藤委員】

正副会長案に決まったが、補助率が75パーセントでは、事業はとてできない。大きな組織というか、お金のある組織なら、足りない部分は自力で補てんできるが、財政的な余裕がないからこうやって応募してきている。

しかし、市の補助金の補助率は4割とか6割とか、その程度。あとは自分で自己努力すればよいこと。その点からすれば、採択された側としては「非常にありがたい」となる。その辺りも考えると、悪くないと思っている。

【高宮会長】

実際出てくる額によっても違ってくるが、それはまた当日に。正副会長案の考え方でいくということ。

【石野委員】

考え方とは、要は傾斜配分をするということか。

【高宮会長】

そのとおり。

**【高宮会長】**

次第5「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

**【堀川センター長】**

- ・今後の日程

令和元年度第2回地域協議会

5月22日（水）午後2時～ 福祉交流プラザ

※1日で審査・採択が終わらなかった場合

令和元年度第3回地域協議会

5月24日（金）午後6時～ 福祉交流プラザ

会議日程は提案件数により変わるため、締切り後に正副会長と相談し、まず電話で日程の連絡をする。その後、文書で通知する。

- ・当日配布資料

創造行政研究所ニュースレター「創造行政」

**【高宮会長】**

事務局の説明について質疑を求める。

**【齋藤委員】**

プレゼンテーションの順番はどうなるのか。

**【小林主任】**

現在の予定では、提案の受付順になる。

**【高宮会長】**

- ・会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課

南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。